

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 国語 科目 古典探究

教科：0 科目：古典探究 単位数：3 単位
 対象学年組：第2学年 1組～7組
 教科担当者：(22HR、24.25 HR①、26.27HR① 組：佐々木) (23 HR、24.25HR②、26.27HR② 組：栗本) (24.25HR③、26.27HR③ 組：宮澤)
 使用教科書：(『古典探究 古文編／漢文編』大修館書店)

教科 国語 の目標：
 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
 【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
 【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
 【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 古典探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域		評価規準	知	思	態	配当 時数
		語	書					
A 古文『堤中納言物語』「虫愛づる姫君」 【知識・技能】 ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める。 【(2)エ】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにする。 【(1)ア】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりする。【(1)オ】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・先人のものの見方や感じ方に興味をもち、自分のものの見方や感じ方を豊かにしようとする。	・古文に関する幅広い知識と教養を身に付け、古人の豊かな情操にふれることにより、我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を涵養する。 ◇指導事項 ・辞書と文法書を有効活用し、古語の意味範囲と古典文法の仕組みを理解した上で、省略語を的確に補い、精度の高い逐語訳を組み立てることができる力を養う。 ・姫君の特異な言動と周囲の困惑について、その理由と意味、表現の特質について、的確に読み取らせる。 ・姫君の言動に対する登場人物の反応の違いとその意味について、的確に読み取らせる。 ・蛇の登場場面における表現効果を読み取らせる。 ○教材 教科書・古語辞書・国語便覧・文法書・ワークブック・プリント・端末			【知識・技能】 ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。【(2)エ】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。【(1)ア】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりしている。【(1)オ】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・先人のものの見方や感じ方に興味をもち、自分のものの見方や感じ方を豊かにしようとしている。				17
定期考査・返却指導					○	○		2
1学期 B 漢文「桃花源記」 【知識・技能】 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深める。【(1)イ】 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深める。 【(1)エ】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、構成や展開などを的確にとらえる。【(1)ア】 ・「読むこと」において、書き手の考えや目的、意図をとらえて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について指摘する。 【(1)ウ】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・漢文の文学史について興味をもち、日本の言語文化に与えた影響について理解する。	・真理を求める態度を養う。 ・漢文に関する幅広い知識を身に付け、豊かな情操を培うとともに、我が国の言語文化に及ぼした影響を知ろうとする態度を養う。 ◇指導事項 ・補助教材を有効活用し、漢字の成り立ちや意味と漢文の構造を理解した上で、本文を的確に訓読し、文法事項に即して精度の高い逐語訳を組み立てることができる力を養う。 ・中国古代史の知識を背景として、村の描写それぞれがもつ意味を的確に読み取らせ、村の存在に託された村人の思いを理解させる。 ・登場人物の言動から、政治や社会のあり方に対する作者の姿勢を的確に読み取らせる。 ○教材 教科書・国語便覧・文法書・ワークブック・プリント・端末			【知識・技能】 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。【(1)イ】 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。【(1)エ】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、構成や展開などを的確にとらえている。【(1)ア】 ・「読むこと」において、書き手の考えや目的、意図をとらえて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。【(1)ウ】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・漢文の文学史について興味をもち、日本の言語文化に与えた影響について理解しようとしている。				11
期末考査								1
C 古文『枕草子』ワーク教材 【知識・技能】 ・敬語表現の基礎と応用を実践的に理解する。	◇指導事項 ・敬語表現の正確な理解に基づき、適切に解釈することのできる力を養う。			【知識・技能】 ・敬語表現の基礎と応用を実践的に理解しようとしている。				5

2 学期	D 古文『更級日記』『蜻蛉日記』 【知識・技能】 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開のしかたについて理解を深める。【(1)ウ】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図をとらえて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価する。【(1)ウ】 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方をふまえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりする。【(1)カ】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・『更級日記』や作者について関心をもち、女流日記文学への理解を深める。	・古文に関する幅広い知識と教養を身に付け、古人の豊かな情操にふれることにより、我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を涵養する。 ◇指導事項 ・辞書と文法書を有効活用し、古語の意味範囲と古典文法の仕組みを理解した上で、省略語を的確に補い、精度の高い逐語訳を組み立てることができる力を養う。 ・回想の日記によって描出された自照性を、作者の置かれた状況の変化を通して的確に読み取らせる。 ・古典文学史における物語と日記の展開を、具体的な作品を挙げて理解させる。 ○教材 教科書・古語辞書・国語便覧・文法書・ワークブック・プリント・端末	○ ○	【知識・技能】 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開のしかたについて理解を深めている。 【(1)ウ】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図をとらえて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。【(1)ウ】 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方をふまえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。【(1)カ】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・『更級日記』や作者について関心をもち、女流日記文学への理解を深めようとしている。	○ ○ ○	14
	E 漢文『史記』「鴻門之会」 【知識・技能】 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深める。【(1)エ】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を読み、その内容を解釈を深め、作品の価値について考察する。【A(1)エ】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・『史記』について興味をもち、歴史を記録することの意味について考えを深める。	・時代背景や地理等の幅広い知識と真理を求める態度を養う。 ・歴史上実在する人物の生き方を通じて、主体的に社会のあり方を問う態度を養う。 ・中国の歴史書の表現の特徴と我が国に与えた影響を知り、我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を涵養する。 ◇指導事項 ・補助教材を有効活用し、漢字の成り立ちや意味と漢文の構造を理解した上で、本文を的確に訓読し、文法事項に即して精度の高い逐語訳を組み立てることができる力を養う。 ・歴史叙述に関する手法や社会的意味等について理解を促す。 ・天下統一を目指す二者に関する対照的な描写を、場面に応じて的確に読み取らせる。 ○教材 教科書・国語便覧・文法書・ワークブック・プリント・端末	○	【知識・技能】 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めようとしている。【(1)エ】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を読み、その内容を解釈を深め、作品の価値について考察しようとしている。【A(1)エ】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・『史記』について興味をもち、歴史を記録することの意味について考えを深めようとしている。	○ ○ ○	8
	定期考査				○ ○	1
	E 漢文『史記』「鴻門之会」 (続き)	〔続き〕	○ ○	〔続き〕	○ ○ ○	8
	F 古文『源氏物語』『桐壺』 【知識・技能】 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深める。【(1)エ】 【(1)イ】 ・我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深める。【(2)ア】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、古典特有の表現に注意して内容を的確にとらえる。 【(1)イ】 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりする。【(1)オ】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・平安時代の貴族文化をふまえて、登場人物の境遇や心情を理解する。	・想像力を養い、豊かな情操を培う。 ・我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を涵養する。 ◇指導事項 ・辞書と文法書を有効活用し、古語の意味範囲と古典文法の仕組みを理解した上で、省略語を的確に補い、精度の高い逐語訳を組み立てることができる力を養う。 ・物語の背景を政治的、社会的側面において指摘させ、主たる登場人物の人物造形を的確に理解させる。 ・後宮文化の理解を通じて、登場人物と周囲の人物との様々な関係性を的確に読み取らせる。 ・『源氏物語』の文学史的な意味を指摘させる。 ○教材 教科書・古語辞書・国語便覧・文法書・ワークブック・プリント・端末	○ ○	【知識・技能】 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。【(1)エ】 ・我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。【(2)ア】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、古典特有の表現に注意して内容を的確にとらえている。【(1)イ】 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりしている。【(1)オ】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・平安時代の貴族文化をふまえて、登場人物の境遇や心情を理解しようとしている。	○ ○ ○	14
F 漢文「長恨歌」 【知識・技能】 ・F『源氏物語』『桐壺』の関連教材				○ ○	1	

